

【テーマ】
就労支援における質の向上、事業所間連携、研修の企画、実施
【部会活動の主な内容・議題】①
6月28日(金) 令和6年度第1回就労部会 第1グループ 研修企画、事業所情報取りまとめ等 第2グループ 共同受注(敬老会作業内容検討) 第3グループ 農福連携、マルシェ、こどもまつり出店振り返り 令和6年度第2回就労部会 全体で10月4日 就労部会研修の役割、内容等の最終確認を行った。 第1グループ 研修シンポジウム、各担当から発表の確認等 第2グループ 共同受注に係る振り返り 第3グループ 農福連携に係る打合せ、農業体験会の内容確認、研修会に係る農福担当コマの発表内容確認 就労部会研修会 テーマ「地域で働く」 各グループの活動内容報告 県中地域における一般就労及びハローワーク登録状況について ・ハローワーク郡山より 郡山市における福祉からの一般就労、平均工賃について ・郡山市障害福祉課より シンポジウム「福祉からの一般就労」 ・就労継続B、就労継続A、企業の立場から 12月20日(金) 令和6年度第3回就労部会 全体にて研修のアンケート共有、振り返り 第1グループ 研修振り返り(研修コマごと) 第2グループ 共同受注振り返り(納品から発送までの流れ、会計報告、事務局機能について) 第3グループ 市内の農福連携の在り方等 3月21日(金) 令和6年度第4回就労部会 第1グループ 令和6年度振り返りと事業計画 第2グループ 令和6年度振り返りと事業計画 第3グループ 令和6年度振り返りと事業計画 就労系事業所連絡会 工賃向上に係る演習会の実施、共同受注に係るシステム作り) 移行連絡会(就労アセスメント、事例検討、企業とつながるセミナーの開催検討)

7月に就労移行支援事業所インフォメーションミーティングの開催)
【部会開催日程】
6月27日(金) 令和7年度第1回就労部会開催9月、12月、3月 4半期に1回開催 10月に就労部会研修会「企業とつながるセミナー」開催
【部会・連絡会活動の主な内容・議題】①
令和6年度就労支援部会実施 内容 グループごと ・1グループ研修について 「就労支援部会の取り組み」と「地域で働くとは」 10月4日(金) 13時30分～17時00分 シンポジウム ”登壇者 株式会社ベニマル、株式会社かるみあ、就労継続支援B型ジョブステップ八山田、あぶくま支援学校” コーディネーター 県中地域障がい者就業・生活支援センター ※地域で働くこと、職場定着の視点でシンポジウムを実施 参加者約60名 アンケート別紙参照 ・2グループ 共同受注システムづくり、授産パンフ更新、連絡会開催 共同受注の今年度の実績（敬老封入作業） ・作業数 47,221 ・参加事業所数 事務局1 フォロー 6 封入 15 計22事業所 ・支払い金額（受注金額） 904,000円 ・作業、振り返り実施日 R6年10月18日 ・注意勧告したが、汚れや封筒のつぶれ、通し番号がずれているものが出ていた。 ・事前の説明会等で注意点を聞いていたので、対策をとることができた。 ・3グループ 10月13日(日) 産業博参加 農福連携ブース出店 1. 研修関係協力 ・就労系サービス在り方セミナー【全国就労移行支援事業所連絡協議会主催】 ・SNS活用研修【県授産事業振興会、障がい者福祉センター共催】 各連絡会について 2. 移行連絡会 ・令和6年度夏休み期間中の特別支援学校の3年生に係る就労アセスメント振り返り ・期間は5日間程度で実施 ・事業所に通所が困難な方は学校へ伺い、訪問によるアセスメント ・一般就労希望者というよりは就労Bを利用もしくは進路選択に迷いがある生徒のアセスメントが中心だった。 ・令和7年度も市内で約30名程度対象者あり。現体制で実施予定(就労アセスメントの制度スタートは10月のため) ・令和7年度より郡山市と代表の移行支援が学校行事に合わせて、説明会を行う予定(仮)

次年度のイベント企画

- ・インフォメーションミーティング実施予定。夏休み期間中の土曜日等
- ・移行支援事業所と企業が繋がるイベント

雇用率未達成企業や実習受け入れを検討できる企業などに参加いただき、障がい者雇用について知ってもらう機会をつくる。→まずは、移行連絡会代表事業所がハローワーク、就業生活支援センターへ趣旨の説明を改めて個別で行い、協力いただけるかを確認していく。

- ・事例検討の実施

3. 就労系事業所連絡会(A, B地活)

- ・実施日 R6年10月18日(金) 15:00～ センター訓練室 参加25名
- ・内容 「作業単価の決め方について～この作業いくらでやる？」
- ・次回の日にちとテーマ
令和7年3月予定 テーマ「 作業賃の交渉方法を考えよう 」
- ・参加者からの感想
- ・各事業所で工賃交渉が悩みであることが会話の中でわかった。
- ・他の作業を参照しながら感覚的に金額を設定している現状があった。
- ・入札形式で単価を出してもらったところ、0.5円から60円までの開きがあり、担当者の経験や作業量に応じて決めている場合があるということが分かった。